

セミナー報告

令和6年度 男女共同参画セミナー② ドキュメンタリー映画の上映と講演

『ずっと助けてと叫んでた』

～助けを求められない子どもたちに、今、わたしたち大人がすべきこと～

令和6年11月16日(土)10時～12時

講師 山口はるみさん



【講師プロフィール】ドキュメンタリープロデューサー・ナレーター・フリーアナウンサーとして30年以上活動。TV・ラジオ番組に出演するかたわら、記念式典・国際フォーラム等を中心に1,000本以上の司会をつとめる。報道番組やシンポジウムで様々な社会問題に触れたことから、ラジオドキュメンタリーのインタビュアー・ライターを経て、映像制作に着手。作品や執筆を通して「子どもへの暴力」「性暴力」等をテーマに、新たな人権意識を共有するためのメッセージを発信している。一男一女の母。夫は映画監督の豊田徳章。

《セミナー概要》

【映画】子どもの頃に実父から性的虐待を受け、その被害を誰にも言えないまま成長し、大人になってからも過酷な経験を重ねた“ほしおか十色”さんと、彼女を支える支援者の方々のインタビューで構成したドキュメンタリー映画の上映。

激しいDV家庭で育ち、幼い頃から恐怖の中で生きてきた。性的虐待が始まったのは、小学校5年生でした。父親は、性的虐待を行った日だけは機嫌が良く、母親を殴らなかった。「私が母を守らなくては・・・」と思っていた。大人になっても長い間心を殺し、感覚を麻痺させてきた分、様々な感情が一気に溢れ出した。自分自身に向き合うことがあまりに辛く、「体に痛みがあると、その間だけ心の痛みを忘れられる」と自傷行為を繰り返すようになり、摂食障害や薬物依存にも陥ってしまった。しかし、彼女にその生きる力を再生させた支援者の人々がいた。「ずっと死ぬことを目標に生きてきた私が、今こうして生きているのは支援者のみなさんのおかげなんです」「私と同じ経験をしている人はとてもたくさんいます。もうこれ以上犠牲者を増やしたくないんです」と、過酷な環境を生き抜き、今は支援者としても活動しているほしおかさんの手記と彼女を再生に導いた支援者の皆さんをはじめ、福祉の現場の最前線にいる方々の証言。

「誰かに助けてほしい」と願う切迫した感情を常に持ちながら、同時に、家族が崩壊してしまうことを恐れて「秘密にしないでほしい」とも思っている。意識しているとかしていないとか、そんなやわな感情ではなく、全神経をとがらせて全身全霊で隠そうとするので、周囲の大人はなかなか気づけない。

by にじいろグループ重永侑紀

子ども自身が、自分のされていることの意味がわからなかったり、加害者から「これは通常の親子のスキンシップのひとつだ」と諭されたりもする。あるいは「誰かにしゃべって家族がバラバラになってもいいのよ」と脅される。加害者はいろいろな方法で子どもをコントロールしている。ほしおかさんのように、自分さえ我慢すれば家族はうまくいくのだと思込まれることも多い。

by 児童相談所所長藤林武史

被害者も加害者も、私たちのすぐ近くにいる!!

【講演】

日本のメディアや街中には、明らかに子どもを性の対象にしたポスターやイラストがコマースリズムとして堂々と横行し、氾濫しています。児童ポルノは簡単に手に入り、法整備も遅々として進んでおらず、加害者は裁かれることなく再犯を繰り返し、海外メディアからは「加害者天国日本」などと批判されています。

現在も社会の片隅で助けを求められないまま、多くの子どもたちが苦しんでいます。想像を超える被害者が存在し、この社会に多くの加害者が潜んでいます。しかし、性に関する話題は依然としてタブー視され、問題意識が十分に育まれていません。多くの大人は「子どもへの性犯罪の実態を知りたくない」や「そんなことは滅多に起こらない」と目を背け続けています。私たちは、そんな大人にはならないように、「私たちは、見ている。加害者には厳罰を科す」という強いメッセージを社会全体で発信しなければなりません。子どもが声を上げられる社会を作るために、「子どもへの性暴力は断じて許さない」という確固たる意思を一人でも多くの人と共有し、協力していく必要があります。

性虐待がどれほど人間の魂を破壊するのか、ほしおかさんの苦悩を知れば知るほど、この問題の深刻さを痛感させられます。私たち一人ひとりが行動し、社会全体で変革を目指さなければならないのです。と語られた。

《受講生の感想》 ※抜粋

- ・山口さんの話を聞いて本当にこの問題を真剣に考えていかねばならないと思いました。もっと多くの人たちに山口さんの話を聞いてほしい!!
- ・私も子どもの頃、父親ではありませんが、近所の年上の男の子数人から受けていました。このような支援が昔はなかったので、声を上げられずにいました。
- ・新聞テレビではいじめの問題を大きくとらえられていますが、“性”関係の事はあまりありません。今日初めて映像を見てショックでした。大人の責任の重さを感じています。
- ・少しでも役に立てる様な大人に近づきたいと思いました。
- ・色々考えさせられる学びの多いセミナーでした。今私ができることとして、日々の会話・対話・コミュニケーションを丁寧に大切に信頼される大人になれるように努めたいと思いました。
- ・これから子どもにとって話しかけやすいおばちゃん目指します。
- ・すばらしい映画でした。講演もとても勉強させられました。
- ・人生長く生きていて、知らないことがたくさんあり、もっと勉強しておけばと反省。
- ・苦しんでいる人が意外と多いことを知った。助ける事が出来れば助きたい。
- ・日々報道で見る少年犯罪の裏にこういうことがあるのかと思いました。行動を善悪で裁いてしまいがちだが、もっと広く見る力をつけたいと思いました。ありがとうございました。
- ・こんなに性被害に苦しんでいる子ども達がいることにいる事におどろきます。回復は何才になっても可能という言葉にホッとしました。奥深いテーマにとまどいます。
- ・昔、子どもと関わる仕事をしていたので、今でも子どもを観ると話しかけてしまいます。子どもから信頼される大人が増える事。まともな人間が、大勢増える事が基本でしょうね。予想していた内容でした。世の中(日本)で加害者を裁けるような体制をつくり、子どもたちを助けていこう!!法知識・政治知識・経済知識など大人達はもっと知り勉強していこう(善悪を知ろう)。
- ・とても良い内容で知らなかったこと知れて良かったです。たくさんの人に見て欲しい。刑を重くして欲しい。
- ・上映会では、多方面から支援に関わる機関の活動や具体的な関りを知ることができて良かったです。講演では、実態を知る事ができ大変勉強になりました。ありがとうございました。
- ・自分の知らない世界で大変な事が起こっているのを知りました。そんな事があるの?というレベルでした。その世界で救う為に活動されている心深い方々がおられる事に感謝です。日本でも加害者に厳罰を課す。アメリカのような制度が欲しいです。
- ・自ら足を運ぶには重いタイトルのセミナーで、内容も大変重いものでした。しかし、こういう事がたくさん隠れているのも現実であり、少しでも改善し、子供たちが明るく育つことができる環境になってほしいと思います。もっと多くの方にこのドキュメンタリーを観たりお話を聞く機会があればと思います。なぜかと言うと昨日の私より今日の私の方が、こういうことを聞くことになったときの心の受けとめ方と準備ができていますからです。私にできることは微々たるものですが、私なりに自ら知る姿勢を作っていきたいと思いました。
- ・子ども達の人権をしっかり守りたいです。すばらしい講座をありがとうございました。
- ・山口さんの講演がとても私には心に響いた。もっとお話を聞きたいと思った。生の声は説得力ある!私もアンテナはって、誰かが助けを求めているか気をつけてみはってほしい。それには自分も胸はって生きている信頼できる大人になるよう努めます。
- ・同じ人間として生まれてきたのに!!加害者と被害者になってしまう!!助けを求める子どもがいなくなることは、思い合える心を持つ大人が育つ!!加害者を育てる環境をなくすことは、おずかしいのでしょうか!!
- ・考える機会と沢山の宿題を頂きました。ありがとうございました。

「人を虐げる。思い通りに動かす。秘密を守らせる。人権侵害の最も顕著な形が性暴力なのです」
権力の強弱、腕力の優劣、立場の上下。性暴力は、こうした力関係の中で起こる。侵してはならない他者の領域を踏みこむという行為は、性暴力だけではなく、さまざまな形で私たちに等しく降りかかる。
性暴力に鈍感な社会は、あらゆる人権侵害に目を瞑る人権意識の低い未熟な社会なのである。